

新城 文化財・観光めぐり

説明文

①～⑳…裏のB面に
A～R…別途補遺として
公民館に準備



垂水市新城地区



A ミンケン坂



D 段の五輪塔群



段

小谷

新城

浦川内

大都

宇住庵

大浜

麓

中村清徳の生家

シタク
白崩え・震洋丸基地跡地

宮脇の玉照寺五輪塔群

電照菊ハウス群

JR 大隅線跡

F 南中跡地

国一様

B 宮脇公園〈アコウ並木〉

諏訪の五輪塔群

C 新城グラウンドゴルフ場

垂水南漁港
(新城地区)

カネ岩の墓石

西郷南洲翁仮宿跡

おたけどんの郷

R 新城村創設記念碑

陸軍所の噴水跡

I 新城公民館・支所・おたけどん郷

H 新城小学校

Q 落花生伝来地

P 宮下遺跡と鉄道公園

麓自治公民館
前の文化財

見晴亭跡

中村清徳の生家

シタク
白崩え・震洋丸基地跡地

山之口の五輪塔群

岩下観音

浦川内の五輪塔群

8

石幢(笠塔婆)

昌福寺跡の無縫塔とさつま板碑

7

6

5

4

11

内山観音

太陽光発電

12

カネサットン

L 感王寺の溜池

G おたけどんの山と上水配水池

K 血止めの坂

J 赤松平橋

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

新城の歴史 (まとめ)

1. 縄文時代の遺跡あり (紀元前数千年前)
2. 紀元0年前後神木村の隼人が神木に氏神を祀る
3. 奈良時代征隼人大将軍の大友旅人が来て抗争
4. 859年 神木神社は垂水の田貫神社と戦い敗れる
5. 平安末期まで新城も神社や荘園が支配
6. 1185年 壇之浦の戦いに敗れた平氏は小谷などに隠れる
7. 鎌倉時代肝付氏の支族鹿屋氏が支配した
8. 1288年 平家の子孫肥後氏が鹿屋氏を破る
9. 1412年 島津氏の庇護の元伊地知氏が肥後氏を駆逐
10. 1572年 伊地知氏が島津氏に敗れ島津氏の天下に
11. 1574～95 宗家島津家の統治 (鎌田政近・伊集院忠棟)
12. 1595～1636 垂水島津家の統治
13. 1625年 新城様は家臣団50世帯を連れて新城に隠居
14. 1636 新城様の孫の久章が新城島津家を創設
15. 1645年 久章の不祥事で新城島津家が断絶
16. 1669 新城島津家の再興 (久章の子 忠清) 200年続く
17. 1869年 明治維新で知行返上 (久治)

【発行】 鹿児島県垂水市新城 3453 (新城地区公民館)
TEL 0994-35-3619

※なお説明文は中島信夫氏著「ふるさとの歴史(新城編)等」
を参考に作成しました。

1 国一様



国一様は肝付氏の支族安楽備前守兼寛（島津氏との13年戦争で牛根入船城を守り、最後は自害した人）の二男「吳鑑和尚」のこと。

仏門に入り玉照寺の住職として庶民を導き、門徒達から国中で一番優れた人と崇め奉られた。イボの神様としても信仰されている。

6 昌福寺跡の無縫塔とさつま板碑



これらは横間の山手にあった昌福寺跡にあった。昌福寺は真言宗の寺院で鎌倉時代の建立だったが、幾世か続いた後廃寺となったが、

天分の頃（1550）龍岳洞和尚が再興した。この無縫塔は山川石製で龍岳和尚の墓塔である。その隣のさつま版碑は自然石製で五輪塔が二基さまざまれている。いずれも所有者の岩田優夫婦が大切に管理されている。

11 内山観音



この観音はもと鹿屋の笠野薬師寺の末寺である内山薬師寺にあったもの。内山薬師寺は鎌倉時代肝付氏の支族鹿屋氏がこの地方を支配していたころ創建していた寺で花岡や浜田、高須等からも多くの参拝者があった。明治初期の廃仏伐毀の際、内山薬師寺も廃寺となったが、観音だけは土地の信仰深い人々によって守り抜かれた。

16 新城様の墓地



新城様は第16代薩摩藩主義久の二女で、垂水島津家第3代彰久（てるひさ）の妃だった。夫が朝鮮征伐の折亡くなったので、新城麓の松尾城の麓に隠居した。領地として3700石を賜り、新城・鹿屋・高須・野里・梅北・高原等が含まれた。子供は垂水島津家4代久信である。新城様は78才で亡くなり、浄瑠寺跡地にあり住民が定期的に清掃している。

2 宮脇の玉照寺五輪塔群



新城様が祖先の霊を祭るために建立したのが、心翁寺の末寺である玉照寺である。明治2年廃仏希釈で廃寺となるまで

信徒達を導き続けた。国鉄大隅線開通の際、線路脇に移されたが、昭和57年復元整備された。五輪塔群は室町期のものと推定される。

7 石幢（笠塔婆）



笠塔婆は一種の供養塔で、長い塔身の上に笠と宝珠をのせて、塔身に仏像や梵字を表したり、銘文を刻んだりする。横間の西三男氏の庭に六角柱の石幢がある。総高175cm、直径90cmで、丸い台座の上縁に経文が記されている。造立は寛永廿年（1643）となっている。

12 カネサットン



田の畔に総高135cm、像高70cmの像が立っている。農業の神として信仰されており、六臂（左右3本ずつの手があり、輪・弓・矢・剣・錫杖・人間などを持っている）、足で邪鬼（アマノジャク）を踏みつけている像が多くみられる。

17 見晴亭跡



1776年新城島津家7代久照は、馬形川河口に見晴亭を建て、隠居され棲家とされた。8代久備はさらに手を入れ、ここを別邸として社交場として使用した。桜島や開聞岳が眺望出来風光明媚であった。1810年伊能忠敬や宗家藩主齊興も宿泊した。齊彬も大隅地方巡視の折、立ち寄り休憩をとられ、風光を賞賛された。

3 諏訪の五輪塔群



室町時代のもので五輪塔以外に版碑が一基含まれる。版碑には石塔建立の趣旨と年月日が刻まれている。

8 浦川内の五輪塔群



山下幹男宅の裏山にあり、埋もれているものを含め昭和57年、五輪塔6基を組てる事が出来た。山川石製で室町初期のものと推定される。

13 陸軍所の噴水跡



昔、新城地区は水がとても不自由な村だった。ある日、貧しい身なりの僧が通りかかり、折りを込めて砂浜に杖を突き刺すと、そこからこんこんと水が湧き出てきた。僧は弘法大使に違いないと話し、その後は大使の杖つき井戸となった。明治維新後、現在の新城小学校に陸軍訓練所が置かれ、井戸も整備され、以来陸軍所の水と呼ばれるようになった。

18 麓自治公民館前の文化財



麓自治公民館は藩政時代「三余舎」と呼ばれ、若者の研鑽の場だった。
・寺田観音：新城様の遺徳を偲んで源昌寺に建立され廃寺の後移された。
・石敢当：中国の英雄名で旅人の無事安全を祈念して道路の分岐点に建てられた。
・一里塚：三余舎の路面は交通の要所で、村最古の里程表である。
・カネサットン：農業の神様が高宮家の庭にあったのを移したものだ。

4 西郷南洲翁仮宿跡



明治6年征韓論に敗れた西郷は、鹿児島に帰り私学校を建て、青少年の教育に励み、合間をみて狩りを楽しんだ。新城大都の上田親豊に嫁いだマスの弟、岩元市之助は西郷の供でここによく来た。新城の元戸長の中村清徳は狩りの名人鹿屋駒之助、兎取りの名人中園休次郎、鉄砲撃ちの名人榎屋与助の3人を選び御伴勢子にしてみてもなした。イカ釣りも楽しんだ。

9 岩下観音



これは聖観音と呼ばれる仏尊で浦川内上の岩屋に安置してある。高さ80cm、幅40cmで、平家の子孫である岩下家が管理しているが、いつ頃からか安産の神として崇拝されるようになった。岩屋の入口とその下の墓地には、室町期と思われる古石塔が十数基あります。

14 神貫神社



古代神木大明神社といわれ、神木村の隼人が神木に氏神を祀り、祭事を行って、社領は遠く垂水まで及んでいた。720年征準人大將軍として大友旅人が来て争があり、神木村も多くの犠牲を出した。平安時代859年宇佐八幡神宮の手貫（たぬき）大明神は山城国から垂水に下向の節、土地にいた上木大明神（神貫神社）と戦いがあった。開聞6社が手貫神社を応援し、上木大明神を新城に追いやった。神貫神社はその後肥後氏、伊地知氏、新城島津家の保護を受け、また明治17年、42年の2回の合祀が行われ9社が1社となった。神社の経営管理は村が行い、六月灯、秋の大祭（秋季例祭・豊年祭・戦没者慰霊祭）、元旦祭、七草祭りが恒例となっている。眠り猫、手洗い石鉢、田の神、大楠の神が鎮座している鎮守の森の風格を備えている。境内内には日清・日露、西南の役、太平洋戦争の鎮魂碑が建立されている。

19 中村清徳の生家



中村家は藤原家の支族で元祖中村主計は、加世田の日新公の家臣であった。主計はその後貴久・忠将・以久・彰久・久信に伝え、垂水に移った。子の清憲は新城様を守る命を受け新城にきて小番家に列された。清徳は11代目に当たるが、無位無禄の一介の武士から家老まで登り詰め、幕末前後の新城のリーダーとして貢献した。生家は新城唯一の武家門が残されている。思無邪は3男で、四郎はその4男で大いに郷里に貢献した。

5 カネ岩の墓石



岩元家は平家の落人で南薩地方で漁業を営んでいたが、朝鮮出兵の折、輸送船の船頭として活躍した。義弘公に認められ、朱印状を賜り琉球との密貿易を始めた。新城様についてきて新城大都の塩入川河口を拠点とした。新城島津家取り潰しの折や調所笑左衛門への支援、西南の役での支援と援助を多くした。度重なる台風で船が沈没したり、御用商人の権利が廃止されるなどして明治18年没落した。今も上田良子さんが墓の保守をされている。

10 山之口の五輪塔群



平家残党の墓といわれ、こんこんと湧き出る水により水田が開かれているので、水田開発の供養塔と言われている。開田が一定の広さに達すると、それを祈念して五輪塔を建てて豊作祈願をしたと言われている。

15 新城島津（末川）家の墓地



新城様は1625年お飯屋を中心とする麓部に家臣団50戸を伴って移られた。そして11年後垂水島津家第4代久信の庶子で新城様の孫の久章が新城島津家を創建された。しかし1645年久章は谷山の清泉寺で闘死した。24年後垂水島津家に預けられていた久章の長子清清が領主となり、鹿屋の一部を含んだ新城領3355石を持って再興した。初代の墓は谷山清泉寺跡にあるが、残りはここ浄瑠寺跡にある。

20 ガラッパ公園



ここは平成9年4000万円余りをかけ整備された。河童の像・多目的広場・活性化広場（グラウンドゴルフ場）・せせらぎ水路（クレソンの群生・ホタルの生息）・イモリの生息などがある。また活性化広場から眺める田圃・錦江湾の眺望は典型的な里山の景色として賞されている。特に秋の架け干しの稲の眺望は素晴らしい。また滝つぼに引きずり込むいたづらをしていた河童を封じ込める為、岩に掘られた梵字もある。〈大日如来の「バン」

